

## 【学会プログラム】

### ◆口述1 「がん・地域」◆ 会場:1F 多目的ホール 10:00~10:55

座長:富中 真悟 (地方独立行政法人 三重県立総合医療センター)

1 訪問リハビリテーションの介入により通所介護の利用に至った一事例

花の丘病院 小森惇

2 がん疾患を抱える利用者に対し、心理・社会的側面と環境調節に介入したことで外出につながった症例

みなと在宅介護サービスセンター 山本香澄

3 夫に家事を教えたいという希望のあった脳腫瘍患者に対する作業療法介入

地方独立行政法人 桑名市総合医療センター 磯谷茜音

4 廃用症候群の症例に対して自主訓練を本人と調整することで改善した一例

しおはま在宅介護サービスセンター 加藤秀崇

5 強皮症の症状を呈する利用者のストマ管理に向けた段階づけた訓練の取り組み

みなと在宅介護サービスセンター 森田浩二

### ◆口述2 「精神・認知症」◆ 会場:3F セミナー室C 10:10~10:55

座長:石崎 健 (JA 三重厚生連 鈴鹿厚生病院)

1 VR-SST による介入で行動変容が得られた慢性期4ケースの報告

三重県立志摩病院 服部友菜

2 救急急性期高齢者病棟における作業療法プログラムの効果  
—2 事例の取り組みを通して—

総合心療センターひなが リハビリテーション部 作業療法課 野津未来

3 認知症本人ミーティング「ステップ I」の紹介

四日市市介護予防等拠点施設 ステップ四日市 上田奈央

4 「認知症になっても買い物を楽しみたい」を叶えるスローショッピング  
—OT や認知症当事者の視点をスーパーマーケットの環境づくりへ—

有限会社ホワイト介護 長太の寄合所「くじら」 佐野佑樹

◆口述3 「脳血管」◆ 会場:1F 多目的ホール 11:10~11:55

座長:野口 佑太 (鈴鹿医療科学大学)

- 1 アテローム血栓性脳梗塞により、切断肢に運動麻痺を呈した事例  
—調理の再獲得に向けた介入—

医療法人社団主体会 主体会病院 徳田桃子

- 2 蘇生後脳症により高次脳機能障害を呈した患者の家族の不安・抑うつ状態に対する作業療法の関わり

三重県厚生連鈴鹿中央総合病院 二村開人

- 3 MELTz を使用した上肢機能訓練により痙性が軽減し実生活場面において麻痺手の使用頻度が向上した一例

医療法人尚豊会 みたき総合病院 リハビリテーション科 花尻千夏

- 4 回復期脳卒中患者の自宅退院に影響する要因  
—先行研究から考える予後予測—

みたき総合病院 山田祐弥

◆口述4 「脳血管・地域」◆ 会場:3F セミナー室 C 11:10~11:55

座長:杉野 恵理 (JA 三重厚生連 三重北医療センター 菰野厚生病院)

- 1 MTDLP・ADOC の目標設定にて行動変容を認めた一例

医療法人尚豊会 みたき総合病院 相松伶奈

- 2 MTDLP を活用し入浴自立を目指した一例

医療法人全心会 伊勢ひかり病院 中北彩音

- 3 通所リハビリテーション男性利用者における家庭内役割の有無とQOLとの関連

鈴鹿医療科学大学 リハビリテーション学科 山口心里

- 4 病人役割をする脳卒中患者に対して、園芸を通して習慣と役割にアプローチした一例  
—人間作業モデルによる回復期作業療法—

済生会明和病院 松井朋之

◆口述5 「運動器・教育」◆ 会場:1F 多目的ホール 13:00～13:45

---

座長:鈴木 良枝 (三重大学医学部付属病院)

- 1 浅指屈筋腱を用いた手指伸筋腱移行術後に手指屈曲可動域の獲得に難渋した一症例  
—感覚入力の工夫—

鈴鹿回生病院 リハビリテーション課 瀧澤 雅

- 2 整形疾患1症例における握力とADLの経過について

三重北医療センター菰野厚生病院 神谷玲奈

- 3 大腿骨近位部骨折女性患者における骨密度と虚弱の関連

松阪市民病院 リハビリテーション室 弓場圭太

- 4 当院における新人教育に関わる療法士の意識調査

主体会病院 総合リハビリテーションセンター 増田彩花

◆ポスター◆ 会場:2F セミナー室 A 13:00～13:45

---

- 1 リハビリ拒否のある重度認知症患者に対しインタビューを用いて目標設定を実施した一事例

市立伊勢総合病院 藤井大輔

- 2 「高齢者・認知症の人の買い物」に関する認知症とともに班の取り組み

—認知症フレンドリー社会の実現を目指した企業へのアンケート調査—

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 三重県済生会明和病院 伊藤航平

- 3 地域在住高齢者における食欲と社会的孤立および孤独との関連性:横断研究

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 立嶋鈴穂

- 4 ニーズが曖昧なため目標設定に難渋した一症例

松阪中央総合病院 リハビリテーションセンター 遠藤琉愛